



えがお 愛顔つなぐえひめ国体 みきゃん通信

問 鬼北町国体推進室 内線4203・4204

No.4

先日の広報で紹介したとおり、鬼北町では正式競技の「少年女子バレーボール」と「少年男子バスケットボール(宇和島市主催)」が開催され、少年女子バレーボールでは、「民泊」を実施します。

民泊とは、全国から国体に参加する監督・選手が宿泊料金を支払って、一般家庭で宿泊することをいいます。昭和33年の富山国体から取り入れられ、まごころのこもったおもてなしが大会参加者に深い感動を与え、現在も積極的に実施されています。えひめ国体では、鬼北町のほかに四国中央市のフェンシング、西予市の相撲で民泊が実施される予定です。

鬼北町では、食事(朝食・夕食)は集会所・公民館等で共同調理により提供し、宿泊・入浴は一般家庭で行う「共同民泊」を行います。

民泊の実施は、単に宿舎を確保するというだけでなく、町民運動の一環として行うことで地域づくりを促進し、全国から集う選手・監督を温かく

迎え、心のふれあいや交流を通じて、「鬼北町」に対する理解や友好を深めてもらうことを目的としています。

また、国体に参加する選手たちは、日本一・世界一になることを目標に、小さい頃から技術を高めてきた人たちばかりです。2020年に開催される東京オリンピックに出場する選手も出てくることでしょう。日本のトップレベルの選手たちと、こんなに身近に交流ができる機会は、もう二度と訪れないかもしれません。選手のこれまでの苦労話や、頑張れる秘訣などを直に聞き、子どもたちにも伝えることは、これ以上ない教育になると考えています。

50年に一度しか体験できない絶好の機会！ 「国体の成功は民泊から」とまで言われています。

民泊の思い出

今回は、バドミントン競技で民泊を実施した、岐阜県池田町の小学4年生の女子児童の感想をご紹介します。

私が住んでいる地区には、岩手県の成年男子3人と少年女子3人が来ました。

選手が帰る日の朝、選手1人1人と打ち合いをしてもらえました。コーチ2人に「うまいね」とほめてもらえて、うれしかったです。あと、選手にアドバイスをもらったので、早く直せるようにしたいです。その後も色紙に選手全員のサインをもらいました。一生の記念になってよかったです。



その後、コーチに「4年後は国体、岩手だから待っているよ」とまで言われてしまったので、これから練習をがんばって国体に出たいと思いました。

岐阜県で行われた国体は、私にとってとてもよい思い出になりました。岐阜県では47年後にまた国体があるので、そのときも一生懸命歓迎をして、またよい思い出を作りたいです。

えがお 愛顔つなぐえひめ国体鬼北町実行委員会からのお知らせ

県実行委員会では、1人でも多くの方にえひめ国体へ参加・協力していただくことにより、県民みんなで感動や夢、希望を分かち合える国体となるよう、県民運動「つなげよう愛顔運動」を展開しています。その県民運動の三本柱の1つとして、花いっぱい運動を展開し、国体に訪れる多くの方をお迎えすることとしています。

えひめ国体の推奨花の種子を、広報と一緒に各戸に配布いたしますので、ご家庭で花を育ていただき、花いっぱい運動にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

